



よりよい学生生活 を支援する —保健管理センター—

皆さんは、保健管理センター(以下センターと略記)といえば何を連想するだろうか。学部学生のほとんどが入学の時健康診断をうけたという程度だろう。だが、もし心配事や悩み事があったりしたら、楽しいはずの学生生活もつらいものになってしまふ。そのような時、私達学生の味方になってくれるのが、センターであ

る。でも、センターはほとんどの学生達にとって遠い存在になっているのではないだろうか。

そこでセンターをもっと身近なものにとらえてもらうため、センター所長である坂田教授、センターで診療とカウセリングをしておられる榎本教授、影山助教授にセンターの現状などについてお話を伺った。

☆センターの業務☆

まず、センターで行われている業務を紹介しよう。センターの業務には、一般定期健康診断、特別定期健康診断、健康調査の実施、カウセリング、救急処置や診断業務の実施、合宿やセミナーの実施などがある。

一般定期健康診断は新入生には4月、職員や他の学生には5月に行われている。身長や体重の測定、血圧測定、胸部エックス線検査、心電図検査などを行い、個々の健康をチェックする。だが、学年によって随分違うが、一般定期健康診断の受診率はあまり高くない。自分の健康を知る数少ないチャンスであるから積極的に利用して欲しい。

放射能・有害化学物質取扱者には健康を損ないやすい環境で研究を行

っているので、特別定期健康診断が6ヶ月ごとに行われている。そこで異常がみられるとセンターで注意を促す。だが、異常がみられるものほとんどが事前のちょっとした注意によって防げるそうだ。

健康調査とは、学部新入生や大学院新入生に対して、おこなわれるものである。この調査にはUPI検査、文章完成法テスト、木の絵を描く欄がある。だが、文章完成法テスト、絵を描く欄などは学生が細かく書いてくれないため、あまり参考にならない。そのため、来年からは改善を図りより多くの情報量を得られるようにするそうである。また、今後UPI検査はコンピュータ処理をする予定である。それによって、個々の



坂田 勝 センター所長
制御工学科教授

UPI検査…
UNIVERSITY PERSONALITY INVENTORY の略で、全国の大学で行われている。“食欲がない”“いらっしゃやすい”などの80項目(うち20項目は東工大独自のものとして補足)にそれが自分にあてはまるかあてはまらないか○×で答えるもの。

性格構造を精密に把握し、問題があればそのデータなどを参考に本人を早期に適切に指導できるようになる。その他センターは、簡単な診療業務や救急処置をしているが、それだけでなく健康上の相談にも親切に応じてくれる。

合宿は、人間関係がうまくいかず大学と下宿の間をピストン移動して



榎本 稔 センター教授

いるなど、大学に適応困難な人に対して行われる。こういう人達がそうなる理由はいろいろあるだろうが、その人が未成熟だからという場合が多い。面白いことにそういう人の中に創造的な人が多い。それは一般に創造的な人は、常識の枠に閉じ込ることなく、自由なものを見方をするからである。しかし、こういう天

才を社会から排除したら社会が発展しない。そのためセンターでは、このような、大学に適応し難い人達に対してセミナーや合宿をしてサポートしているのである。

☆最近の学生について☆

センターが行っているカウセリングを通して、カウンセラーである榎本教授は最近の学生について次のように感じている。

東工大生は、知的には非常に優秀だけれども人間関係を作るのがとても苦手で、感情的・情緒的に未成熟であり、精神的にもろい。これは、東工大生に限らず大学生全般に最近多くなっている。

また、最近大学院生に、就職して束縛されるより自由な時間を多くもてるから大学院に進学したという人が少なからずいる。そういう人の中に自分の専門の選択に疑問をもち専門をかえたいという人が増えてきたようで、最近そういう人からの相談が増えてきた。

坂田教授はその原因を次のように考えておられる。

江戸時代には職業選択の自由がなかったが、今は社会が複雑多様化してきて適性のあるところに自分のエネルギーをもっていける。だが、選択の自由度が多すぎるために自分が

何に最適なのか分からず、人に左右されやすい人が増えてきている。

また、影山助教授は自分の選択に疑問を持っている人が多いことを社会精神医学的に分析されている。

攻撃性の強さを表す指数として、例えば“殺人”というものを選ぶ。昭和16年から戦後のベビーブームの時に生まれた人において殺人の発生頻度が多く、これはこの世代が、攻撃性の発散を殺人に向けているのを示している。しかし、現在の若者ぐらいの世代は、殺人が少ない。結局現在の若い世代は、攻撃性が転化しいじめなどで表現されて、昔の世代と違ったこの世代の特徴ともいえる無気力が前景として現れているのだろう。

区 分	出 現 数	出 現 率 (%)
思 う	35	2.9
思 わ な い	745	62.0
わ か ら な い	311	25.9
無 記 入	110	9.2

平成元年度健康調査結果の一部

☆カウセリングの問題点☆

坂田教授、榎本教授、影山助教授をはじめとするセンターのスタッフ全員が、学生が楽しい学生生活を送れるよう色々考えている。しかし、その願いも学生には、あまり通じて

いないようだ。右図を参照して欲しい。これは、平成元年度の学部新入生に行われた健康調査の結果であるが、“あなたは精神面、身体面で健康相談を受けようと思いますか”的に

月	業	就職	心理・性格	人生态度	身体症状	心理・精神	家庭子供	異性他	その他	計
4	4	1	3		3	4				15
5	4	1	3		2	5				15
6	3		4		3	5	1			16
7	2		4			2				8
8	1									1
9	1	1	5			2				9
10	4		3	1	1	1				10
11	1	1	2		1	2	1			8
12	4		1	1	1	2		1		10
1	2		1	1		1				5
2		1	1			1				3
3	1							2		3
計	27	5	27	3	11	25	2	3		103

センター新規来室者数

☆センターの将来の計画☆

ここ数年、東工大の学生数が急激に増加したためセンターも手狭になり、施設拡大が必要となってきた。特に長津田分室にそれが顕著に表れている。分室は総合研究館の3階にあるが、大岡山に比べて規模が小さい。それは、本来センターというものは学部学生を対象にしているものだからである。今春、生命理工学部が長津田に移転をしたため、これを機

会に分室のスタッフの増員をし、できれば独立した建物を作り充実を計りたいという。

また、センターにサロン風なものを設けて、学生の憩いの場となるようにし、学生に気軽にセンターに来てもらえるようにしたいという。設備では、テレビ診療システム、電算機保健管理システム導入を計り、近代化をめざすそうだ。

健康管理センターはその性格上、暗いイメージをもたれがちであるがセンターの先生方は強くそれを否定する。

榎本教授にきたカウセリングでこういうものがあった。

学生「彼女と付き合うとお金がかかりますね。」

教授「当たり前だよ。」

学生「じゃあ、お金を貸してください。」

とにかく病気の事、生活の事、友人関係はもちろん、心身以外の“酒を飲むお金がない”などささいなことで

もかまわないのでセンターに相談に来て欲しいという。また、センターの先生方は、人生経験がとても豊富なので相談がなくても先生方と話されると色々面白い話が聞けるであろう。

最後に、多忙なとき取材に御協力いただいた坂田教授、榎本教授、影山助教授をはじめ、センターの方々に深く感謝いたします。

(滝田)

実際、習得単位がほとんど0単位で、このままだと学則により退学になる人がいた。再三、助言教官がセンターに来るようアドバイスしたが結局相談に来ず、ようやく相談に来た時は既に手遅れで、センターとしては何も有効な手段をとれずに彼は退学を命じられた。

心配事や悩み事は早めに手を打つに限る。何か相談があつたら早めにセンターにきて欲しいと先生方はおっしゃっていた。



影山 任佐 センター助教授

(なお、健康管理センター所長は、平成3年4月1日より、坂田教授から化学工学科の岡部平八郎教授に変われました。)